

第六次大野市総合計画 基本構想（素案）の中間報告

1 将来像 「人がつながり地域がつながる 住みたい結のまち」

市民対象のアンケートで、大野市のキーワードとして、「結」「つながり」という言葉が多かった。「結」という言葉は、昔から、農作業や冠婚葬祭などの様々な仕事をお互いに助け合う習慣のことで、今もこの精神が受け継がれており、この言葉の意味を、「人がつながり 地域がつながる」という表現に置き換え、これからも「結」のことが大切であることを表した。また、「つながる」には、中部縦貫自動車道県内全線開通や北陸新幹線の敦賀開業で各地とつながるという意味が込められており、高速交通体系の大きな変化に対する未来への希望も含まれている。そして、「住みたい」という言葉には、今後10年間に人口減少と少子化、高齢化が進み、非常に厳しい状況においても、大野市が「ずっと住みたい持続可能なまち」であり続けたいという強い気持ちを込めている。

2 計画期間 10年間（令和3年度～令和12年度）

10年は長いという意見もあったが、総合計画は、「基本構想」と「基本計画」で構成され、将来像と基本的な方向性を定める「基本構想」を10年、「基本計画」を5年間の前期・後期とした場合、「基本計画」の見直しの際に、「基本構想」を見直すことは十分可能であること、また、市ではSDGsを推進しており、その目標年度が10年後の2030年（令和12年）であることから、計画期間を10年間とした。

3 基本目標分野

こども	子育て、保育、学校教育、家庭教育、地域での教育
健幸福祉	健康、医療、スポーツ、福祉
地域経済	商業、サービス業、工業、労働、観光、農業、林業、内水面漁業
くらし環境	環境保全、地下水保全、道路、都市計画、上下水道、公共交通、廃棄物対策
地域づくり	人づくり、地域での支え合い、公民館、文化・芸術、移住、交流、防災、消防、防犯
行政経営	市民サービス向上、市と市民の協働、行政改革、市と市民の情報共有、次世代技術の活用 財政運営

4 その他

審議会開催日 第1回 令和元年6月2日（日）
第2回 令和元年12月22日（日）